

# III 活動記録

'03-'04年度人文学会常任委員会（編）

## 人文学会の諸活動

### 一 機関誌「人文研究」の発行

（論文総目録・著者目録をP 67から掲載した）

### 二 論集及外国文献翻訳書の発行

○近代思想研究会論集 草薙正夫・山本 新編

『世界危機と現代思想』

一九五四（昭和二十九）年四月二〇日 理想社発行

現代人の忠誠問題 大熊 信行

宗教と近代科学 信太 正三

技術と宗教 高山 岩男

科学とヒューマニズム 菅井 準一

米ソの政治的神話における共通性 山本 新

危機思想と経済学の課題 宮川 武雄

ウィーン・シカゴ学団の動向と

その思想的意義 江沢 譲爾  
トインビーの人と学風 鈴木 成高

虚無と実存 草薙 正夫

「ファウスト」第一部における学問蔑視 上原 専禄

○神奈川叢書第二巻 アルフレート・ウェーバー著

山本・信太・草薙訳

『文化社会学』

一九五八（昭和三十三年）二月二五日 創文社発行

第一章 社会過程・文明過程・文化運動 山本 新訳

第二章 歴史の内的構造論としての歴史

・文化社会学 信太 正三訳

第三章 異説との対決 草薙 正夫訳

○神奈川叢書第二巻 信太正三・山本 新編

『伝統と変革』（草薙教授還暦記念論文集）

一九六一（昭和三十六）年七月一〇日 創文社発行

贈られたものとしての自由 金子 武蔵

実存と歴史 草薙 正夫

科学とニヒリズム

人間再生産論

経済学の伝統と近代分析理論

文明と世代

西洋化の悲劇

自由の反抗史覚書

地域社会と二重構造

草薙博士の人と業績

ヨーロッパ人について

○神奈川叢書第三巻 カール・レーヴィト著

信太正三・長井和雄・山本新共訳

『世界史と救済史』——歴史哲学の神学的前提——

一九六四(昭和三十九)年三月五日 創文社発行

○人文新書 山本新・平田満男共編

『学生とともに』——大学・学問・人生——

一九六六(昭和四十二)年十一月一日 神奈川大学文学会発行

神奈川大学文学会ミレニアム記念出版

○小林一美・岡島千幸編

『ユートピアへの想像力と運動

——歴史とユートピア思想の研究——』

二〇〇一(平成十三)年九月五日発行 御茶の水書房

○大里浩秋・孫安石編

『中国人日本留学中研究の現段階』

二〇〇二(平成十四)年五月三十一日発行 御茶の水書房

三 教科書出版助成

○中村浩平・塚田眞幸編

"Wollen wir Deutsch sprechen?"

「ハロー! ドイツ語を話してみようか」

二〇〇四(平成十六)年二月十日発行 三修社

四 人文学会定例研究会

○一九五五(昭和三十)年

11月 シュプランガーの宗教論

12月 実存の芸術的性格

○一九五七(昭和三十二)年

1月 明治における地主制の展開をめぐる 山田 操

5月 「人文研究」第八集合評会

東洋芸術と西洋芸術

——ヴォーリンガーの美学について—— 草薙正夫

10月 音楽分析と語形成

大熊信行教授著『国家悪』合評会 杉原正孝

リルケに対するヤコブセンの影響 金子正昭

12月 ガブリエル・マルセルについて 信太正三

○一九五八(昭和三十三年)

2月 T・E・ヒュームとH・リード

## —二つの様式論—

5月	大正期農民運動の分析	相原幸一	6月	Shakespeareの英語における shall, willの用法について	中村駿夫
6月	政治の限界	山田操	7月	ヤスパースの歴史観	草薙正夫
6月	現代英詩の成立について	山本新	9月	スラヴ主義と日本浪漫派	山本新
10月	—W・B・イエイツの詩をめぐって—	島津昭	9月	ハーバード・リードの芸術教育論	相原幸一
12月	グレアム・グリーンにおける 神の問題	飯田耕作	10月	個性・社会・教育	
12月	ドストエフスキー		12月	—シュライエルマッヘルにおける— ホフマンスタールと現実への参加	長井和雄 菊地武弘
〇一九五九（昭和34）年	『地下生活者の手記』について	信太正三	〇一九六一（昭和36）年		
1月	古英語の発音について	杉原正孝	3月	メルヴィル／ベント・セレンノについて	向井俊二
5月	ヤスパースの芸術論	草薙正夫	5月	「人文研究」第十八集 合評会	
	日本ファシズムと農村	山田操	6月	「人文研究」第十九集 合評会	福田実
7月	英語の強意表現	山下雅己	10月	ビート世代批判	
9月	トマス・グレイの詩について	須藤兼吉		一つの農村	
10月	ヤスパースの暗号解説論	草薙正夫	10月	—その現実と夢の農基法—	山田操
11月	職業陶冶と一般陶冶	長井和雄	11月	「人文研究」第二十集 合評会	
12月	ケラワックについて	福田実	12月	H・リードの浪漫主義	相原幸一
〇一九六〇（昭和35）年			12月	コンラッドの詩想と詩的表現	須藤兼吉
2月	標準英語における発音の不統一	小倉兼秋	〇一九六二（昭和37）年		
	レーヴィットの歴史観	信太正三	1月	実存哲学者としてのニーチェ	草薙正夫
5月	町村合併による市町村の変貌	山田操	3月	—ヤスパースのニーチェ解釈— シュライエルマッヘル大学論	長井和雄
	—神奈川県内陸地帯の調査報告—		5月	「人文研究」第二十二集 合評会	

6月	ガプリエル・ミストラルの人と作品 ハムレットの一六〇三年	岡田辰雄	11月	明治二十年代における 若い精神的情况と思想形成の可能性 現代『British English』における Syntaxの動向	神川正彦
10月	スピノザの“自然の法則”について	平田満男	12月	〇一九六六(昭和41)年 専攻語学としてのスペイン語教授法 初期エリザベス朝悲劇における 外来と土着	松川昇太郎
11月	「人文研究」第二十三集 合評会	工藤喜作	1月	〇一九六八(昭和43)年 ニッチェにおける遊戯の哲学	岡田辰雄
12月	イギリス文学にみる愛国心	須藤兼吉	2月		平田満男
〇一九六三(昭和38)年			5月	A・カストロのスペイン論	桑名一博
7月	歴史における行為の説明	神川正彦	6月	擬似文の諸問題 In Cold Bloodについて	疋田三良
〇一九六四(昭和39)年			10月	文学と科学 一九二〇年代英国批評の今日的意味	向井俊二
5月	実存と自由	草薙正夫	11月	アーノルドとヘルダーリン	須藤明
6月	現代のシェイクスピア校訂	平田満男	12月	禅と実存哲学	入江直祐
7月	ベンジャミン・フランクリン	向井俊二	〇一九六七(昭和42)年		中川敏
10月	会話における米語一般音声学	杉原正孝	5月	一九二〇年代の英文学	信太正三
11月	刺激伝播	山本新	7月	大正・昭和期日本外交の問題点	入江直祐
12月	シュプランガーの神秘主義	長井和雄	10月	歴史主義の転換	三宅正樹
〇一九六五(昭和40)年			11月	シュペングラーの波紋	神川正彦
2月	明治維新論に関する予備的論理分析と 思想的アプローチの意義	神川正彦	12月	Advanced Received Pronunciation	山本新
6月	東大寺お水取の行法に観る 古代的なるもの	篠田融	〇一九六八(昭和43)年		中村駿夫
7月	ドン・フワンについて	会田由	6月		信太正三
9月	思想家としての吉田兼好	草薙正夫			
10月	ハーバート・リードの詩論	相原幸一			

○一九六九（昭和44）年

6月 歴史のことば

12月 放送におけるオミッショント

コミッション

○一九七〇（昭和45）年

1月 ミルトンの天使論

10月 日本古代文芸の成立

12月 スピノザの国家観

カフカの最後の作品について

○一九七二（昭和46）年

2月 アメリカ南部の時間相

6月 『セールスマンの死』の悲劇性

Carry-overの類義語の意味分析

○一九七二（昭和47）年

5月 思想史の破壊と破壊の思想史

6月 教授システムの評価

10月 本居宣長と地方社中

○一九七三（昭和48）年

1月 明治末年の鷗外

（その後の資料未収録。現在は定例研究会は開かれていない）

五 人文学会主催講座・学内講演会・公開講演会

○近代思想研究会論集

『世界危機と現代思想』発行記念講演会

一九五四（昭和29）年

4月 トインビー

ウィーバーシカゴ学派の動向

米ソの政治的神話における共通性

司会

5月 アインシュタインの思想的発展

フランス革命史学

司会

5月 技術と宗教

ニイチエの実存主義

経済学の実践性

司会

5月 忠誠義務の問題

司会

○人文学会発表会記念講演会

一九五四（昭和29）年

6月 特異なる思想家

田岡嶺雲

実存理性の論理

○人文学会第一回教養講座

11月 英文学の性格

12月 スペイン及びラテンアメリカ文学展望

鈴木成高

江沢譲爾

山本新

福田実

菅井準一

小野重雄

山本新

高山岩男

草薙正夫

宮川武雄

小野重雄

大熊信行

信太正三

司会

田岡嶺雲

東京教育大学教授

家永三郎

草薙正夫

須藤兼吉

大林多吉

12月 ヘミングウェイの文学

福田 実

6月 カーライルの業績について

小倉 兼秋

○人文学会第一回公開講演会(朝日ビル六階にて)

12月

司会

草薨 正夫  
山本 新

○人文学会第五回教養講座

11月 上代美術について 東京国立博物館次長  
11月 西洋美術の話 国立近代美術館副館長

田内 静三  
今泉 篤男

西洋と非西洋

現代の英詩壇―桂冠詩人

ジョン・メイスフィールドについて―

須藤 兼吉

○人文学会第二回教養講座

一九五五(昭和30)年

6月 アメリカ文学の一面

―「白鯨」の作者メルヴィルをめぐって―

向井 俊二

5月 ニイチエの人と思想

6月 現代の農村はどうなっているか

山田 操

6月 現代イギリスの小説

6月 最近の文明論

山本 新

6月 現代日本の農業

7月 日本古代美術の話

草薨 正夫

○人文学会第三回教養講座

7月 ゲーテの「ファウスト」解説

藤野 義夫

11月 アメリカに背くアメリカ人

○人文学会第三回公開講演会(海員会館三階ホール)

11月 社会科学と現代

一九五八(昭和33)年

草薨 正夫

―農村調査をめぐって―

5月 挨拶

草薨 正夫

11月 サルトルの革命思想

アメリカ文学における実存思想

福田 実

12月 トーマス・マン、人と思

生活と文学

本多 顕彰

○人文学会第二回公開講演会(中小企業会館五階にて)

○人文学会第七回教養講座

12月 平和と実存

10月 現代文明

相原 幸一

人間喪失の歴史的問題

10月 平和と文学

福田 実

○人文学会第四回教養講座

○人文学会第四回公開講演会(平塚市医師会館)

一九五六(昭和31)年

11月 司会

草薨 正夫

6月 日本のセンチメンタリズム

山本 新

文化的教養について

須藤 兼吉

科学と宗教

○人文学会内講演会

一九五九（昭和34）年

5月 学生生活と精神衛生

国立精神衛生研究所技官

山本 新

6月 リルケの歩んだ道  
現代の学生像

○人文学会・商経法学会共催学内講演会

6月 学問と生活

○人文学会第五回公開講演会（横浜開港記念会館）

10月 東と西

生命は地球よりも重い

金子 正昭

山田 操

上原 専禄

山本 新

正木 亮

○人文学会音楽講演会

6月 音楽の聴き方

音楽評論家

野呂 信次郎

○人文学会内第二回シンポジウム

6月 テーマ「文学と哲学」

提案者

飯田 耕作

信太 正三

福田 実

草薨 正夫

○人文学会第四回シンポジウム（創立記念大学祭参加）

11月 テーマ「世代論」

司会

草薨 正夫

福田 実

相原 幸一

○人文学会第三回シンポジウム

（創立三〇周年記念大学祭参加）

11月 テーマ「伝統と変革」

司会

福田 実

提案者

草薨 正夫

信太 正三

山本 新

飯田 耕作

○人文学会・商経法学会共催新入生歓迎講演会

5月 学会紹介

人文系

草薨 正夫

古沢 源刀

谷川 徹三

○人文学会音楽講演会

5月 ベートーベンの音楽について

音楽評論家

野呂 信次郎

○人文学会・商経法学会共催学内講演会

○人文学会第八回教養講座

1月 安保条約改定の問題点

国学院大学教授

神谷 竜男

6月 暴力と殺人、法との関連において 評論家

○人文学会第八回教養講座

6月 文化のさむらい

子供の未来国と教育

○人文学会・商経法学会共催出版記念講演会

人文系『伝統と変革』

商経法系『日本経済の成長と構造』

9月 あいさつ

報告者

司 会

○人文学会音楽講演会

一九六二（昭和37）年

2月 西洋音楽の鑑賞について 音楽評論家

○人文学会・商経法学会共催新生歓迎講演会

学会紹介

人文学会  
商経法学会

日本の大学は何を反省すべきか

○人文学会音楽講演会

6月 バロック音楽について 音楽評論家

○人文学会第七回公開講演会

（横浜開港記念会館）

6月 挨拶

日本人の宗教心

文化と世代

○人文学会美術講演会

7月 現代美術の諸傾向

○一九六三（昭和38）年

7月（小田原）

哲学は無力か

現代における人間喪失

○一九六四（昭和39）年

5月 ギリシャ彫刻について

6月（横浜市開港記念館）

二つの転向

東洋と西洋

6月 シェイクスピアの世界

11月（千葉市商工会議所）

現代アメリカ文学における人間

実存主義とは何か

12月 ヨーロッパの印象

○一九六五（昭和40）年

5月 法学会、経済学会創立記念講演会

（三学大会共催）

中島 健蔵

田中 菊雄  
長井 和雄

大熊 信行

岡野 鑑記

草薙 正夫

宮川 武雄

原 司郎

山本 新

古沢 源刀

門馬 直美

草薙 正夫

古沢 源刀

大熊 信行

野呂 信次郎

草薙 正夫

信太 正三

中村 光夫

川北 倫明

草薙 正夫

大熊 信行

沢柳 大五郎

山本 新

谷川 徹三

小津 次郎

福田 実

松浪 信三郎

飯田 耕作



10月	『学生とともに』出版記念講演会	講師 山本新・福田実	司会 相原幸一・山本新	10月	三宅正樹・平田満男
10月	『学生とともに』出版記念講演会	講師 山本新・福田実	司会 相原幸一・山本新	10月	中川敏
6月	外国語学部開設記念講演会 (横浜開港記念会館)	講師 岩崎民平	司会 相原幸一・山本新	10月	堀口捨己
6月	言語と表現	講師 黒田覚	司会 相原幸一・山本新	10月	法、経、人文三学会共催講演会
6月	昭和四十年代の日本経済	講師 宮川武雄	司会 相原幸一・山本新	10月	恵観山荘と桂離宮
6月	日本国憲法の憲法史的地位	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	大学祭シンポジウム
6月	ドン・キホーテについて	講師 会田由	司会 相原幸一・山本新	11月	学生と教師のあり方
7月	戦後ナショナルリズムの文明論的意味	講師 篠田一士	司会 相原幸一・山本新	5月	新人生歓迎講演会
7月	世界文学の中の日本文学	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	5月	現代とユートピア
10月	(新宿紀伊国屋ホール)	講師 金子武蔵	司会 相原幸一・山本新	5月	青春と文学
10月	道徳と宗教	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	5月	鎖国と世俗化
10月	日本文明論	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	5月	国際情勢とベトナム問題
10月	大学祭シンポジウム	講師 山本新・福田実	司会 相原幸一・山本新	6月	戦後社会の出発点
10月	芸術と大衆	講師 山本新・福田実	司会 相原幸一・山本新	6月	明治思想史の方法論
10月	アメリカ風物誌	講師 山下雅己	司会 相原幸一・山本新	11月	大学祭シンポジウム
10月	欧州旅行落穂拾い	講師 入江直祐	司会 相原幸一・山本新	11月	現代と宗教
10月	日本国憲法の憲法史的地位	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	鎖国と世俗化
10月	言語と表現	講師 黒田覚	司会 相原幸一・山本新	11月	国際情勢とベトナム問題
10月	昭和四十年代の日本経済	講師 宮川武雄	司会 相原幸一・山本新	11月	戦後社会の出発点
10月	日本国憲法の憲法史的地位	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	明治思想史の方法論
10月	ドン・キホーテについて	講師 会田由	司会 相原幸一・山本新	11月	大学祭シンポジウム
10月	世界文学の中の日本文学	講師 篠田一士	司会 相原幸一・山本新	11月	現代と宗教
10月	戦後ナショナルリズムの文明論的意味	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	鎖国と世俗化
10月	(新宿紀伊国屋ホール)	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	国際情勢とベトナム問題
10月	道徳と宗教	講師 金子武蔵	司会 相原幸一・山本新	11月	戦後社会の出発点
10月	日本文明論	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	明治思想史の方法論
10月	大学祭シンポジウム	講師 山本新・福田実	司会 相原幸一・山本新	11月	大学祭シンポジウム
10月	芸術と大衆	講師 山本新・福田実	司会 相原幸一・山本新	11月	現代と宗教
10月	アメリカ風物誌	講師 山下雅己	司会 相原幸一・山本新	11月	鎖国と世俗化
10月	欧州旅行落穂拾い	講師 入江直祐	司会 相原幸一・山本新	11月	国際情勢とベトナム問題
10月	日本国憲法の憲法史的地位	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	戦後社会の出発点
10月	言語と表現	講師 黒田覚	司会 相原幸一・山本新	11月	明治思想史の方法論
10月	昭和四十年代の日本経済	講師 宮川武雄	司会 相原幸一・山本新	11月	大学祭シンポジウム
10月	日本国憲法の憲法史的地位	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	現代と宗教
10月	ドン・キホーテについて	講師 会田由	司会 相原幸一・山本新	11月	鎖国と世俗化
10月	世界文学の中の日本文学	講師 篠田一士	司会 相原幸一・山本新	11月	国際情勢とベトナム問題
10月	戦後ナショナルリズムの文明論的意味	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	戦後社会の出発点
10月	(新宿紀伊国屋ホール)	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	明治思想史の方法論
10月	道徳と宗教	講師 金子武蔵	司会 相原幸一・山本新	11月	大学祭シンポジウム
10月	日本文明論	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	現代と宗教
10月	大学祭シンポジウム	講師 山本新・福田実	司会 相原幸一・山本新	11月	鎖国と世俗化
10月	芸術と大衆	講師 山本新・福田実	司会 相原幸一・山本新	11月	国際情勢とベトナム問題
10月	アメリカ風物誌	講師 山下雅己	司会 相原幸一・山本新	11月	戦後社会の出発点
10月	欧州旅行落穂拾い	講師 入江直祐	司会 相原幸一・山本新	11月	明治思想史の方法論
10月	日本国憲法の憲法史的地位	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	大学祭シンポジウム
10月	言語と表現	講師 黒田覚	司会 相原幸一・山本新	11月	現代と宗教
10月	昭和四十年代の日本経済	講師 宮川武雄	司会 相原幸一・山本新	11月	鎖国と世俗化
10月	日本国憲法の憲法史的地位	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	国際情勢とベトナム問題
10月	ドン・キホーテについて	講師 会田由	司会 相原幸一・山本新	11月	戦後社会の出発点
10月	世界文学の中の日本文学	講師 篠田一士	司会 相原幸一・山本新	11月	明治思想史の方法論
10月	戦後ナショナルリズムの文明論的意味	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	大学祭シンポジウム
10月	(新宿紀伊国屋ホール)	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	現代と宗教
10月	道徳と宗教	講師 金子武蔵	司会 相原幸一・山本新	11月	鎖国と世俗化
10月	日本文明論	講師 山本新	司会 相原幸一・山本新	11月	国際情勢とベトナム問題
10月	大学祭シンポジウム	講師 山本新・福田実	司会 相原幸一・山本新	11月	戦後社会の出発点
10月	芸術と大衆	講師 山本新・福田実	司会 相原幸一・山本新	11月	明治思想史の方法論
10月	アメリカ風物誌	講師 山下雅己	司会 相原幸一・山本新	11月	大学祭シンポジウム

7月 西ドイツにおける学生運動と大学改革 長井和雄

○一九七三（昭和48）年

1月 人文学会創立二十周年祝賀会(別館)

(この間の資料未収集)

○一九九七（平成9）年

5月 21世紀の中国言語学 鄭 錦 全

University Education in England Emma Knowles

楊度と立憲君主制

李曉東

6月 新会員歓迎講演会

# 日本大学生の英語の発音の特徴

特にイントネーション——前田マーガレット

行政と住民による協同型資源回収 松本安生

敏生

Okinawan Historical Identity     Dr. Michael Weiner

20世紀を生きぬく―スペイン内戦・

ラーゲリ体験をふまえて— ジャック・ロッシ

Migrant Workers in Japan

Dr. Michael Weiner

新聞記者の見た中南米

—私たちと異文化社会—  
伊藤千尋

ペルー人質事件の真相

—人質事件の真相—  
伊藤 千尋

——公邸に入った！——  
原田浩司

中国日裔青年の現状

中国の「民間文学」

——中国残留孤児2世——

飯倉 照 平

大久保 明 男

7月 漱石における笑いと明治という時代 小森陽一

10月 マクベス(英語劇)

## The Pre-Raphaelite Painters

of Victorian English (with slides) Dr. Graham Parry

朝鮮近代史から見た日中関係史 孫安石

ぼくの役者人生

12月 文化の顔は、国の顔

環太平洋国際文化交流の未来

—日本とウラジオストク・沿海州—  
レオニード・イヴァノヴィチ

アニメモブ  
／  
ヴィクトル

ドウカヴオヴィチ・ガールキン

外国（異文化）における大使の役割  
澤木正男

アフリカを食べる

—ジャーナリストの目と胃袋—  
松本仁一

男の子育て―男らしさに

こだわらず家事も育児も――松田正樹

1月 中国東北の日本文学研究  
馬 興 国

ロマン派時代のイギリス  
中野記偉

3月 現代母性社会と癒し 藤森 功

〇一九九八(平成10)年

5月 韋岸海外協力隊に参加して―アルゼンチン

での私(日本語教師)の2年間―

6月 新会員歓迎講演会

代名詞化について

言語の社会的属性の研究

中国現代の旧体詩問題

日本社会の東と西

中国の現状

―朱鎔基登場を中心に―

横浜での中国帰国者日本語教室の体験

7月 インターネット時代の個人作品の可能性

―デジタル映像による撮影と編集―

物語としての中国思想史

パソコン入門からインターネットの

ホームページ作成まで

10月 キャンパスワイド情報ネットワークと

CATVの教育的利用

Why communication is not a joke

―Relevance and Content―

―語用論としての―

関連性理論の基本的概念と目指すところ―

11月 上海の語り物評弾について

Re-designing Pre-service Education

to include Gender Equity

―男女平等教育を―

教員養成課程に導入するために―

12月 ロマン派の詩と伝承バラッド

ラジオ放送とコミュニケーション

〇一九九八(平成11)年

4月 日中西国語同時通訳の授業を担当して

5月 外国語としての英語の習得 Learner's

Noticing of Their Own Second Language Output

and Effects on Subsequent Task Performance by

Japanese Learners of English as a Foreign Language

中国での銀行ビジネス8年間の経験

教室の中のジェンダー

6月 雑誌をつくる

―月刊誌Studio Voiceの場合―

男でも女でもなく―男性から女性への

トランスジェンダーを生きる―

中国で日本語を教えて

表現のメディアとしての映像

日本の芸能―伝承と『かたち』―

10月 19世紀後半南北アメリカへの

華人の移出と初期駐米公使の研究

Ms. Paula T. Bourne

戸田 基

Hilary Valdez

王 津

デビッド・アリン

湯川 誼

木村 涼子

加藤 陽之

葛 森 樹

山田 裕 香

深田 独

赤坂 治 績

園田 節子

11月	中国関連企業就職心得	片寄浩紀
12月	『人を援助する楽しさのために』プロを鍛える アマチュア『あなたは、プロフ・ジョナレ…… それともアマチュア……?』	羽下大信
1月	歴史とユートピアの消滅 女性に対する暴力―D.V.(夫や恋人からの暴力)の実態と解決の課題― 海南島海関貿易移民報告1876〜 1931年―ジャンク・移民・豚	辻井喬 阿部裕子 藤村是清
〇二〇〇〇(平成12)年		
4月	『ニュース23』をつくる男 〜メディア本来の姿を語る 上海から中国近代史を見る フィリピンの商業伐採跡地をめぐる土地・資源問題	金平茂紀 忻平 関良基
5月		
6月	日本軍の性暴力 〜中国山西省での調査で思うこと 元在ベルー外交官が見た大統領選挙 生涯現役『若い人々へのメッセージ』 〜前途程遠 馳思於雁山之暮雲	石田米子 小倉英敬 村上潤
7月	苦境を脱した朱鎔基〜国有企業改革と WTO加盟を巡る中国の対応 未来の問いとしてのポストコロナリズム	杉本孝 鶴飼哲
12月	新会員歓迎講演会 東アジア近代史とラジオ放送 戦争と言語〜第二次世界大戦下に おける新聞の文体研究 婚姻制度のなかの姓と性 〜ジェンダー法社会学の視点から 中国映画事情	孫安石 岩本典子 星野澄子 矢野目直子
10月	『世界史現段階における文化芸術の躍動』 異文化交流の仲介者Ⅱ通訳の役割 〜英語通訳の体験と後進の教育 国際文化交流のハイテクノロジー 新『年』と演劇スタニスラフスキーとチェーホフ 〜ロシア・アメリカ・日本・西欧での体験をふまえて 中国婦国者の戦後処理〜支援、責任と市民運動 カルチュラル・スタディーズとパルタンス・スタディーズ 〜ポストコロナルという概念について 横浜の国際交流活動について 〜現場と地域からみたボランティア活動 韓国の付加価値税制 人文学会シンポジウム 『21世紀、アジアの座標軸を求めて』 『21世紀東アジアの相互認識』 東アジア論と現代韓国国の思想	ライザ・ラム・ゴウ・マ バート・スミス レオ・ド・ラ・シモラ ロバート・イ・フィード 竹中千春 浦川久代 李弦祐 木山英雄 尹健次
11月		
12月		
1月		
2月		

〇二〇〇一（平成13）年

東アジア論・韓国が見たアジア  
アジアの歴史認識について  
戦争の『記憶』をめぐる日中関係  
コメンテーター…横堀昌巳・大重浩秋  
孫 安石

白 永 瑞  
孫 歌  
砂 山 幸 雄

4月 日・中比較文化研究を考える

嚴 安 生

日中経済の現状と展望（一）

太 田 光 雄

日中経済の現状と展望（二）

井 上 尚 弘

6月 新会員歓迎講演会

新 木 秀 和

『生物の楽園』から人間社会へ  
ラテンアメリカの政治の変遷

— 研究の周辺 —  
ヴィクトル・カルデロン

Gender, Topic Nomination and Language

イトン・ド・チャール

Teaching Elementary

Vocabulary in Context  
キャサリン・ジトニス

台湾の女性たちのNPO活動

顧 燕 翎

中国の学生は日中関係をどう見ているのか

曹 振 威

プーシン大学でのモスクワ留学生生活

小 石 吉 彦

7月 人文学会シンポジウム

『21世紀 アジアの座標軸を求めて』

中国戦後補償起訴の争点  
高 木 喜 孝

在日コリアンの戦後補償と参政権  
コメンテーター…梶 健・西野 瑠 璃 子  
アフガニスタンの人々とその暮らし  
浙江大学学術交流シンポジウム  
吉 田 敬 三

金庸作品の魅力を探る  
（人文学研究所と共催）

岡 崎 由 美

金 文 京

パネリスト

王 良 勇

查 良 鏞

陳 平 原

呂 紹 理

12月 台湾におけるラジオ産業の展開  
人文学会シンポジウム

『マルクス主義歴史は死んだか』

パネリスト

原 秀 三 郎

久 保 田 文 次

浜 林 正 夫

白 永 瑞

白水 紀 子

渡 辺 瑞 枝

ナタリア・イワノワ  
有 賀 友 紀

1月 多様な性のあり方を考える  
3月 六朝時代の漢語語彙

方 一 新

〇二〇〇二(平成14)年

5月 毛沢東時代の経済建設―三線建設  
中国近現代史と変法運動の評価について  
行つてみたロシア住んでみた中央アジア  
新会員歓迎講演会

7月 自然言語理解における意味分析  
教員の資質能力の向上について  
二字漢語の語順について―反義語の場合  
情報教育の体系と教科情報の位置付け

11月 中国語文法論史研究の問題点  
人文学会学生部会主催

中国の少数民族政策 貴州省苗族の場合―  
中国のチベット宗教政策  
人文学会学生部会主催  
『市長、原稿無しで語る』

3月 楊 志 強  
イリナ・ガリ

4月 劉 軍  
曹 振 威  
平 井 信 行  
久 保 智

〇二〇〇三(平成15)年

『9・11とブッシュ政権』―ワシントン  
支局長はその時何を見たか  
私の「モスクワ放送局」勤務  
中国福建省の『巫』と『風水』  
若者の「居場所づくり」現場から  
文化大革命下の上海  
新会員歓迎講演会  
お酒の地理学  
中国都市史研究を語る―天津の近代  
多様な性のあり方を考える

11月 『明るく、素直に、あたたかく』  
支局長はその時何を見たか  
私の「モスクワ放送局」勤務  
中国福建省の『巫』と『風水』  
若者の「居場所づくり」現場から  
文化大革命下の上海  
新会員歓迎講演会  
お酒の地理学  
中国都市史研究を語る―天津の近代  
多様な性のあり方を考える

中国語学科FOC  
『胡弓と中国の伝統音楽について』  
上海から見た戦後日中関係史  
野球と気象  
『生きるための翼を』ピアノリサイタル  
新会員歓迎講演会

7月 ロシア思想研究の現在  
平安時代の暴力と秩序  
子どもの目をとおしてみた  
イギリスと日本  
横浜市の国際交流活動について  
地域と密着する国際交流活動  
豹変するロシア  
―建都300周年の  
サントペテルブルグを訪ねて―  
新会員歓迎講演会  
高齢者の地理学  
『呼びかけの表現』の日朝対照研究

11月 丹 波 哲 郎  
中 井 良 則  
内 藤 忠 明  
何 孝 弘  
大 場 孝 弘  
陳 祖 恩

12月 八 久 保 厚 志  
張 利 民  
野 宮 亜 紀

1月 楊 志 強  
イリナ・ガリ  
劉 軍  
曹 振 威  
平 井 信 行  
久 保 智  
大 須 賀 史 和  
前 田 禎 彦  
白 須 康 子  
浦 川 久 代  
早 川 秀 樹  
白 山 利 信  
平 井 誠  
生 越 ま り 子

本中世社会における軍記物語の展開と再生  
現代中国語の時間体系について  
韓国における英語教育と日本語教育  
今後の日中経済関係  
国際シンポジウム  
11月 「アジアのポップカルチャーと日本」  
10月 「文学研究所・国際交流センターと共催」  
9月 加藤 宏 彰  
8月 陸 正 洙  
7月 片 寄 浩 紀

パネリスト

王 向 華  
程 郁  
オスカー・カンボマイネス

コメンターター

陳 昌 洙  
市川 孝 一  
朴 順 愛  
寺 沢 正 晴

司会

生きなおす、ことばくことのちから

―横浜寿町から

大 沢 敏 郎

新会員歓迎講演会

日英語の指示詞に関して

日本語とイタリア語の比較統語論

「宗教」の成立と展開をめぐる近年の議論

意味論分析の方法論

岩 畑 貴 弘  
辻子 美 保 子  
前 川 理 子  
羽 佐 田 理 恵

六 独立ネットワークの構築とホームページの掲載  
〇二〇〇三（平成15）年

3月 クライアント・サーバーシステムを

人文学研究所内に構築した。

クライアントPC3台

11月 人文学会、人文学研究所の

ホームページを掲載した。

URLは左記の通り。

<http://human.kanagawa-u.ac.jp/>

七 その他

〇二〇〇二（平成14）年

12月 機関誌『人文研究』を第一四〇号

（二〇〇〇年）から国立情報学研究所の

データベースに載せることを決定した。

〇二〇〇三（平成15）年

8月 人文学会の看板を掲げた。鈴木陽一

外国語学部教授のご尽力により、

任平氏（中国）に制作を依頼、

人文学研究所と共に設置した。